

平成23年度海外学術調査フォーラム
地域別分科会・VI サハラ以南アフリカ
(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (AA研))
福島大学行政政策学類 西崎伸子

アフリカの野生動物保護 分野における地域研究

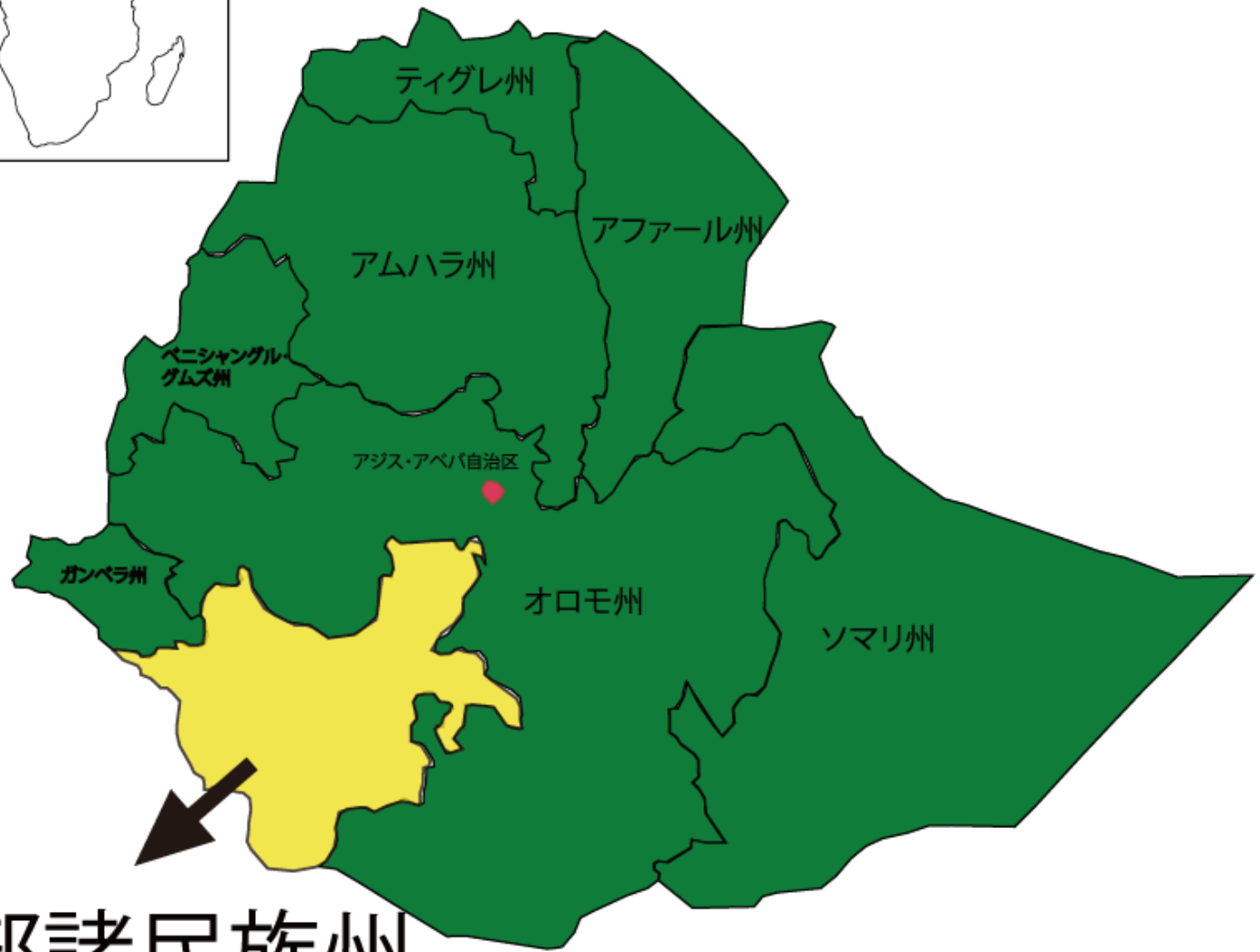
アフリカの野生動物保護に関する研究の概要(1)

- ◎ 1996年～2年間 エチオピアでJOCVとして活動
- ◎ 1999年～おもにエチオピアで「野生動物と地域住民のかかわり」をテーマに野生動物保護区の周辺地域で研究活動（専門：アフリカ地域研究）
- ◎ 海外学術調査の資金
 - 2011年4月～、基盤研究（S）、文部科学省科学研究費「アフリカの潜在力を活用した紛争解決と共生の実現に関する総合的地域研究」分担
 - 2011年4月～、基盤研究（C）、文部科学省科学研究費、「新しい狩猟活動の生成に関する地域間比較研究」代表
 - 2007年4月～2011年3月、若手研究（B）、文部科学省科学研究費、「アフリカにおける地方分権化下の野生動物の保護管理に関する研究」代表
 - 2004年4月～2005年3月、特別研究員奨励費、日本学術振興会、「アフリカの野生動物保護における利害関係者間の合意形成に関する研究」代表
 - 2002年4月～2004年3月、特別研究員奨励費、日本学術振興会、「アフリカにおける住民主体の自然保護に関する研究」代表、
 - 2000年4月～2001年3月、トヨタ財団研究助成A、トヨタ財団、アフリカにおける住民主体の環境保全政策の構築

アフリカの野生動物保護に関する研究の概要(2)

- ◎ 従来は、保全生態学や動物行動学分野からのアプローチ多数（霊長類研究者など）
- ◎ 地域研究、文化人類学からのアプローチは新しく、未だ少数
 - ◎ 例外：狩猟採集社会を対象とした生態人類学的研究など
- ◎ 立場によって、見方が異なる
 - 動物保護VS.地域（社会）開発
 - 動物保護も地域（社会）開発も
 - 地域に根差した保全政策を

調査地はエチオピア



南部諸民族州

エチオピアの野生動物保護の特徴

- 二度の政治体制の変化による影響大

帝政時代
(~1974)

社会主義政権時代
(1974~1991)

EPRDF政権時代
(1991~)

Protectionismの強化
(囲い込み)

民主化
地方分権化
Community Conservation?

地方分権化と野生動物の保護管理 政策の関係

- ◎ 政府は1995年以降、地方分権化をすすめる
- ◎ 州が自然保護区の管理をする権限
- ◎ 「住民参加」はどうなっているのか？



◎ センケレ・ス
ウェインズ・
ハーテビー
ト・サンク
チュアリ



マゴ国立公園



地方分権化と住民参加

- ◎ 州が管理⇒あまりうまくいっていない
 - ◎ 例：民間組織への管理委託
- ◎ 「住民参加」の芽はいろんなところから出ているが、それを育てることができていない。

エチオピアで調査するために

調査手続き、ビザなどについて

- ◎ 2種類のビザ：
 - 観光ビザ：1ヶ月間有効の「シングル・観光ビザ」、または3ヶ月間有効の「マルチプル・観光ビザ」が取得できる
 - ビジネス・ビザ：調査や会議を目的に入国する場合
 - 1ヶ月間有効「シングル-ビジネス・ビザ」
 - 3ヶ月、6ヶ月、1年間有効の「マルチプル-ビジネス・ビザ」
 - レジデント・ビザ：長期の調査：入国後にアジスアベバ大学など、調査者を受け入れる現地機関の推薦状をもち、入国管理局に申請
- ◎ イエローカード（黄熱病予防接種証明書）は2002年から不要

調査手続き

- ◎ 「野生動物の保全」はどの分野の研究なのか
- ◎ 当初：アジスアベバ大学理学部生物学科
プロポーザル→教員会議で受理→調査費支払い→調査許可（長い時で1カ月）
- ◎ 現在：アジスアベバ大学エチオピア研究所
手続き同じ（最短2日）
- ◎ さらに、南部諸民族州都アワサ農業省で
同じ手続き（最短1日←例外）

地域の治安

◎ 首都アジスアベバ

- 他のアフリカ大都市と比較すると「安全」と言われているが、
- スリ、ひったくりなどは多い
- コーヒーセレモニー詐欺
- 爆発事件（最近だと2009年1月のマルカート）も多数
- 調査許可取得のため最低限の滞在
- 危ない地域（マルカート周辺等）にいかない、行くときは、現地の人と一緒に行動。とくに女性は注意。

◎ 農村地帯

- スカウトと呼ばれる現地雇用の保護区スタッフと一緒に行動。
- 保護区事務所長が殺害される（2006年）

・地域問題と対処方法（カウンターパート情報）

- ◎ 野生動物保護をめぐる問題はとてもセンシティブ
- ◎ 住民側のたつのか、政府側にたつのか、常に行動を見られている。

・健康管理や病気について

- ◎ 標高の低い地域：蚊取り線香、虫除けを携行し、マラリア予防薬服用を検討する必要あり。
- ◎ 髄膜炎の流行がある。日本大使館（アジス）などで、情報入手する。このほかHIVの感染率が高い、結核の流行もある。
- ◎ 安宿、バス、タクシーを利用したときに、ダニやノミに刺される。なお主な疾病や最近の医療事情については、在外公館医務官情報（エチオピア）を参照のこと。

会計関係（予算のやりくり等）

◎ 調査にかかる費用

- 渡航費：
- （調査許可）：
- レンタカー代：民間の会社からレンタル
- スカウト等への謝金：

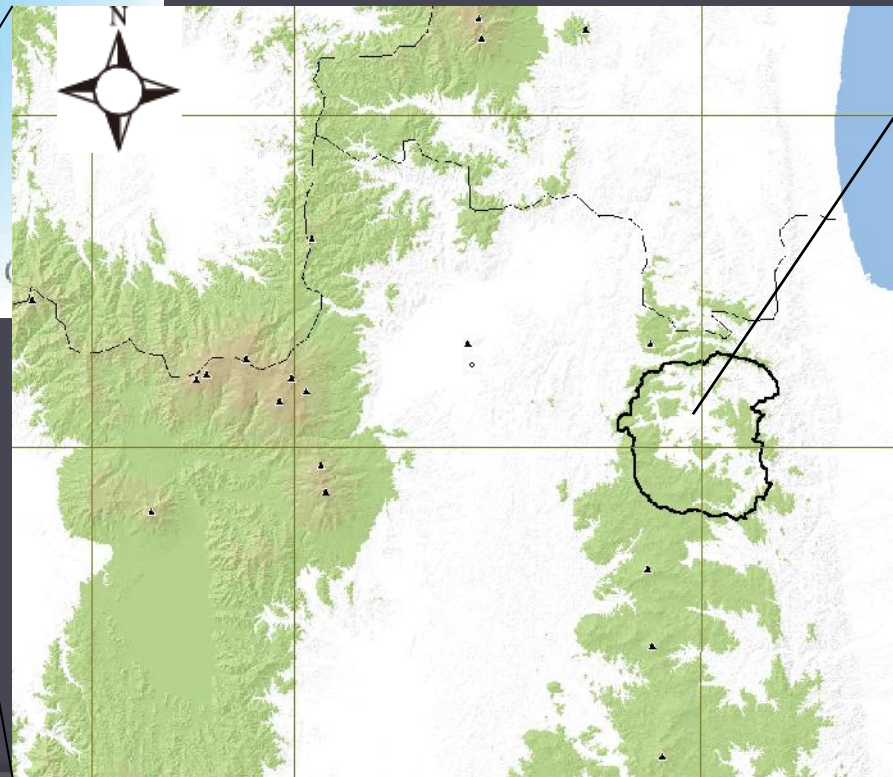
資料の持ち出し

人権・倫理問題について(個人情報の問題)

- ◎ 植物標本→アジスアベバ大学生物学科
- ◎ 個人情報：狩猟（密猟）に関しては、慎重に

補足：フィールドの喪失

地域間比較研究に向けて



福島県・飯舘村

緑色は標高500m以上の地域を示す。

飯舘村におけるユニークな獣害対策

- ◎ 日本でも野生動物の保護管理が地方分権によって自治体の管轄になる
- ◎ 事例研究：飯舘村
 - ユニークな村づくりの歴史
 - ◎ 住民参加型の村づくり
 - ◎ 獣害対策は村づくりの一環



今の飯舘村

- 人口6058人（2093世帯）が避難対象
- 典型的な中山間地域
- 3分の1が農業従事者
- 4月19日 原発事故により、全村が計画的避難地域になる。
- 5月16日に避難開始
- 6月22日9割の住民避難。役場は福島市に移転。



補足の補足

- ◎ 研究者にとっては「フィールド喪失」
- ◎ 人々は他所(避難場所) で生活
 - 研究者として、何ができるのか
 - アフリカ地域研究者の共感力と実践力の可能性